

ひよし 日吉ダム最大流入時に約97%を貯留、ダム下流の河川水位を低減

淀川水系桂川の水資源機構日吉ダム（南丹市日吉町）流域では、停滞する前線の影響により、8月15日1時から17日16時までの総雨量が214mm（ダム流域平均雨量）を記録しました。

この降雨により、ダムへの最大流入量は、毎秒1,291立方メートルとなりました。

この洪水に対して、日吉ダムでは通常の防災操作以上に貯留する操作を実施し、最大流入時に約97%（毎秒約1,250立方メートル）の水をダムに貯留して、ダム下流の河川水位の低減に努めました。

※防災操作：大雨により、ダムに流れ込む水の一部をダムに一時的にため込んで、ダムから下流に流す量を減らし、下流の川の水位を低減させる操作。

※今回の発表は速報値であり、今後の精査により数値等が変わることがあります。

平成26年8月20日

国土交通省 近畿地方整備局 淀川ダム統合管理事務所

独立行政法人 水資源機構 日吉ダム管理所

発表記者クラブ

京都府政記者室
南丹市政記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 日吉ダム管理所 所長代理 あらい 新井
住 所：京都府南丹市日吉町中神子ヶ谷68
電 話：0771（72）-0171（代表）

国土交通省 近畿地方整備局 淀川ダム統合管理事務所 副所長 しんかわ 新川
住 所：大阪府枚方市山田池北町10番1号
電 話：072（856）-3131（代表）

ひよし 日吉ダム最大流入時に約97%を貯留、ダム下流の河川水位を低減

停滞する前線の影響により、淀川水系桂川の日吉ダム（南丹市日吉町）流域では、8月16日17時から18時までの1時間の雨量が平成10年4月の管理開始以降において最大である60mmを記録し、降り始めの8月15日1時から17日16時までの総雨量が214mm（ダム流域平均雨量）に達しました。

この降雨により、ダム流入量が増加し、16日15時04分には洪水量（毎秒150立方メートル）に達したため、防災操作を開始しました。

16日15時23分には、ダム下流の河川水位の上昇を低減させるため、降雨及びダム流入量の状況から、ダム流下量を減量してもダムに貯留可能であることを確認し、国土交通省淀川ダム統合管理事務所長の指示により、ダム流下量を通常の防災操作である毎秒150立方メートルにするところ、毎秒15立方メートルに減量し、通常の防災操作以上に貯留する操作を開始しました。

その後、ダム流域内の時間雨量が60mmを記録し、ダム貯水位の急激な上昇が予測されたため、国土交通省淀川ダム統合管理事務所長の指示により、ダム流下量を毎秒15立方メートルから、毎秒150立方メートルに増量し、通常の防災操作を再開しました。

16日21時33分には、流入量が最大（毎秒1,291立方メートル）となり、同時刻におけるダム流下量は毎秒約42立方メートルであり、流入量の約97%（毎秒約1,250立方メートル）をダムに貯留しました。この流入量は、昨年9月の台風18号に次いで、平成10年4月の管理開始以降第2番目の流入量となりました。なお、先週10日の台風11号洪水時の最大流入量（毎秒913立方メートル）を上回る流入量となりました。

防災操作の概要

	流域平均総雨量	ダムへの流入量が最大となった時刻	同時刻におけるダムへの流入量	同時刻におけるダム流下量	同時刻におけるダム貯留量
日吉ダム	214mm	平成26年8月16日 21時33分	毎秒1,291m ³	毎秒42m ³	毎秒1,249m ³

今回の防災操作により、日吉ダムが無い場合と比べ、ダム下流の保津橋地点（かめおかしほつちょうしもなかしま 亀岡市保津町下中島地先）の河川水位を、最大約2.5メートル低減したものと推定され、はん濫危険水位（4.50m）を上回ることを回避しました。

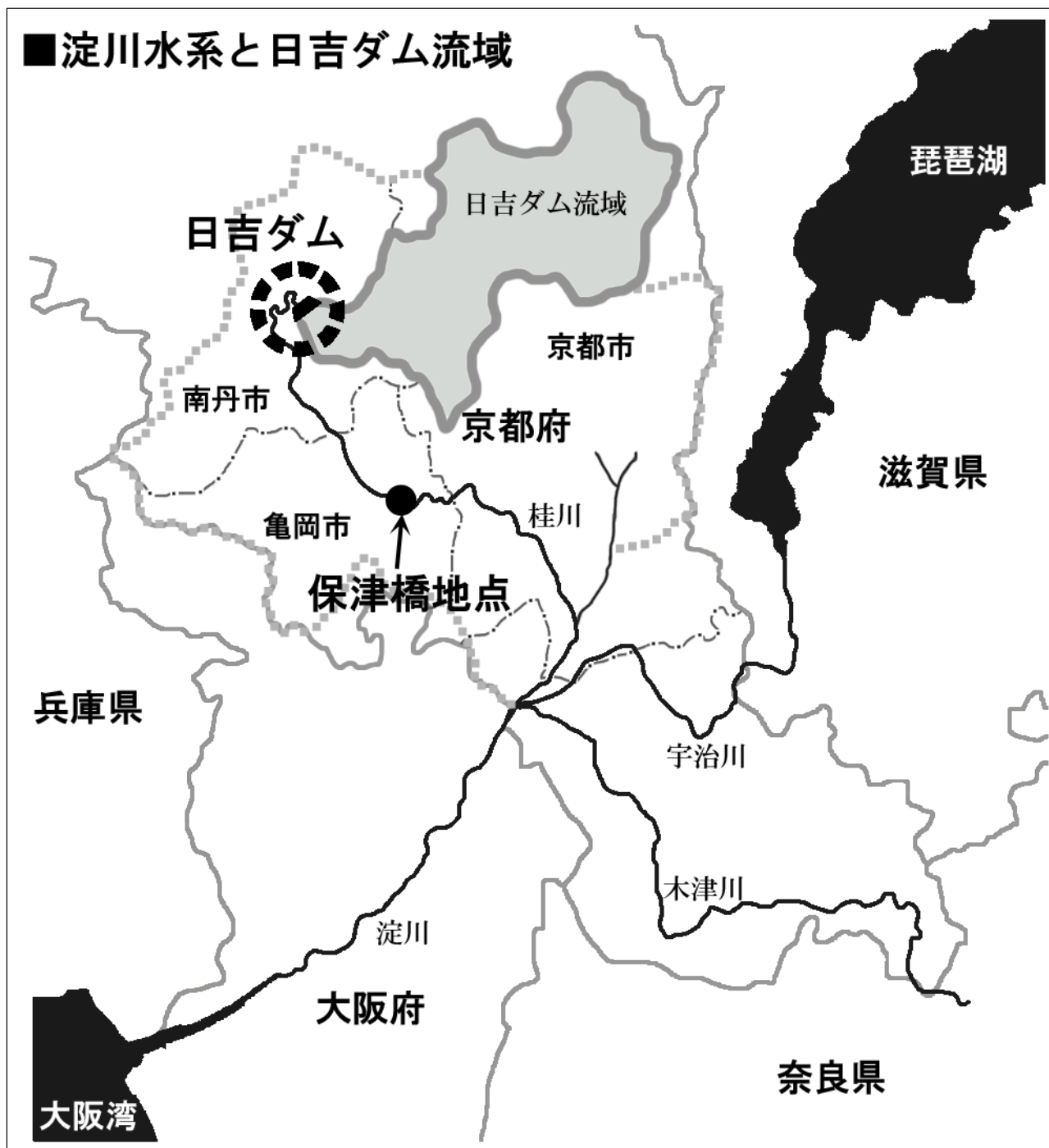
保津橋地点の水位低減効果

保津橋地点の河川水位が最高水位となった時刻	同時刻における保津橋地点の河川水位	ダムがなかった場合の同地点の最高水位	水位低減効果
平成26年8月16日 21時10分	3.68m	6.22m	2.54m

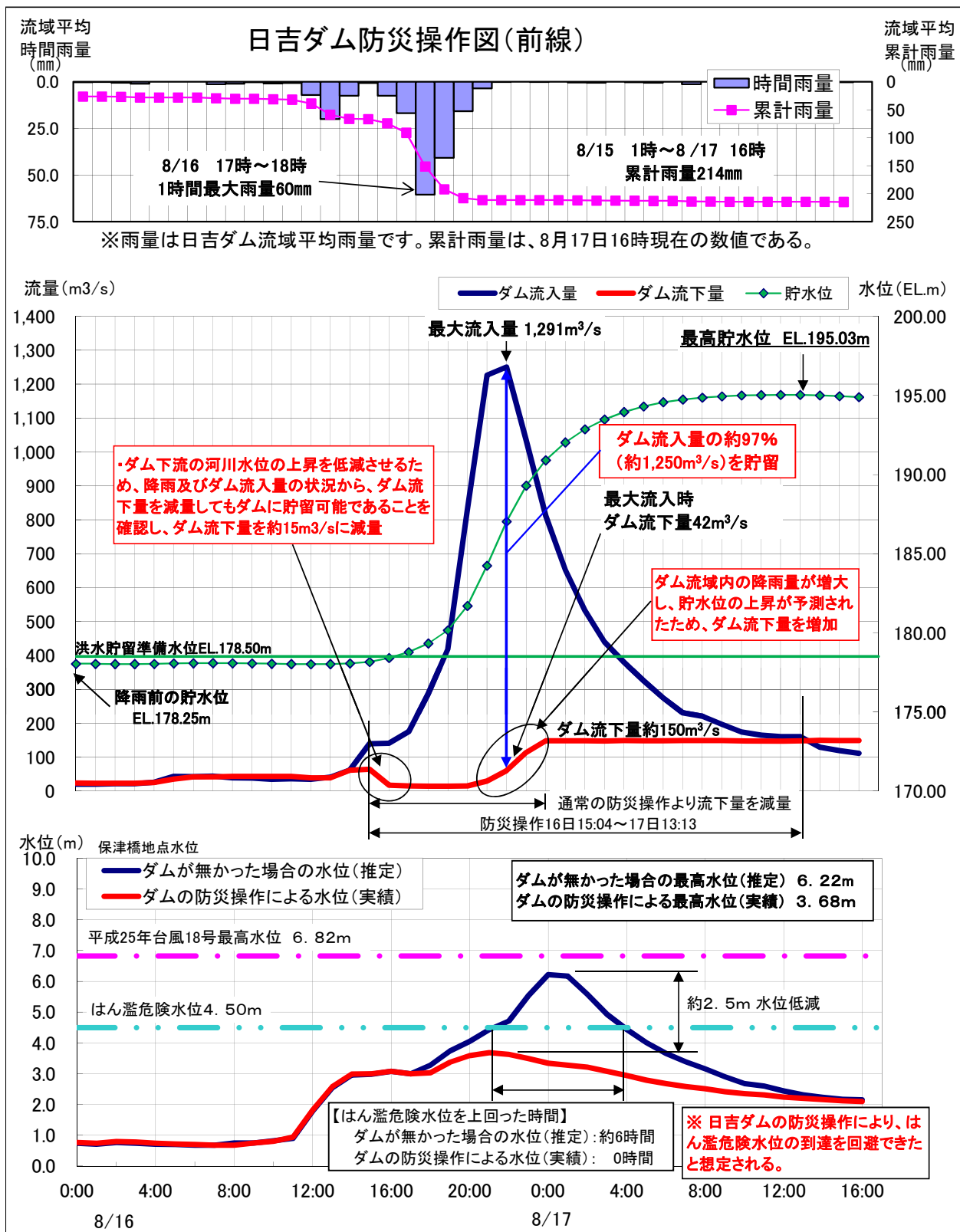
河川水位は、高い状態が続いています。十分ご注意ください。

日吉ダムでは、今後もダムの効果が最大限に発現できるよう努めて参ります。

位置図



・日吉ダム最大流入時に約97%を貯留、ダム下流の河川水位を低減



管理開始(平成10年4月)以降の主な出水の記録

順位	出水名	総雨量 [mm]	最大流入量 [m ³ /s]	最大流入時のダム流出量 [m ³ /s]	最大流入時の貯留量 [m ³ /s]
1	平成25年 9月 台風18号	345	1,694	148	1,546
2	平成26年 8月 前線	214	1,291	42	1,249
3	平成26年 8月 台風11号	298	913	14	899

※ 管理開始(平成10年4月)以降の出水で、最大流入量が大い方から3番目までを記載しています。

※ 数値等は速報値であり、今後の精査により変わることがあります。

日吉ダム最大流入時に約97%を貯留、ダム下流の河川水位を低減

資料3

停滞する前線の影響により桂川の水量が増大し、日吉ダム管理開始以来、平成25年台風18号に次いで第二位となる最大流入量（毎秒1,291立方メートル）を記録しました。日吉ダムでは、最大流入時に約97%の水をダムに貯留し、京セラドーム大阪22杯分（2,718万立方メートル）に相当する水をダムに貯め込みました。今回の防災操作により、ダム下流の保津橋地点（亀岡市保津町下中島地先）の河川水位を、最大約2.5メートル低減したものと推定されます。

最大流入時に約97%の水を貯留し、京セラドーム大阪[※]22杯分に相当する水をダムに貯め込み、ダム下流の河川水位の低減に努めました。（[※]京セラドーム大阪の容量を120万m³として算出）

ダム堤体上流面

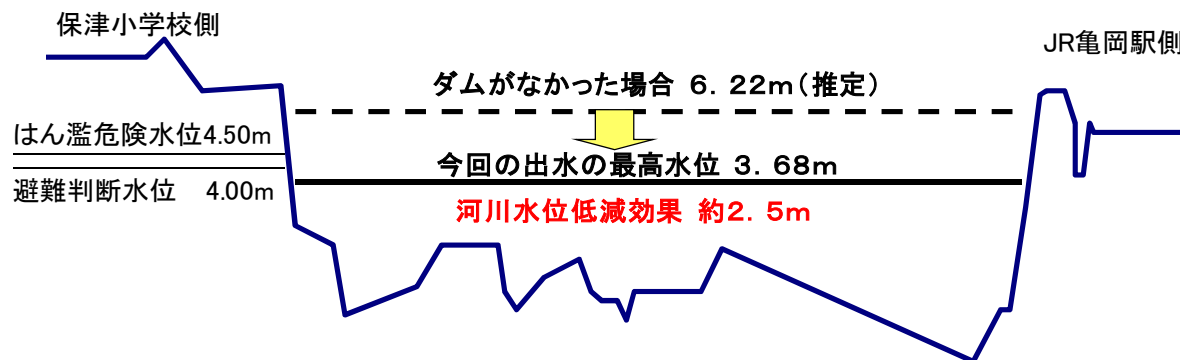


（貯水位EL.174.48m：平成26年8月8日9時30分）



（貯水位EL.195.02m：平成26年8月17日10時40分）

保津橋地点（保津川下り乗船場付近）での水位低減効果



※ 今回の発表は速報値であり、今後の精査により数値等が変わることがあります。